

クラブ会長スローガン「行動するロータリアンとしての充実感を共有しよう」

第2のスローガン「Most brilliant Rotary 最高に輝く(素敵な・賢い)ロータリー活動」

方針「目標に向かい行動するロータリアンを目指そう!」

Rotary
Club of Nagoya Meieki

国際ロータリーのテーマ

世界に希望を生み出そう

2023-24 年度 R.I. 会長
ゴードン R. マッキナリー名古屋名駅ロータリークラブ
承認: 1991 年 4 月 17 日
例会日: 水曜日 12:30 ~
例会場: 名鉄グランドホテル会 長: 両角國男
副 会 長: 盛田兼由
幹 事: 森 美穂
クラブ会報: 森畑 明

●名古屋名駅ロータリークラブ 事務局: TEL.052-433-8160 FAX.052-433-8161 E-mail: meiekirc@f5.dion.ne.jp http://www.nagoya-meiekirc.com

第1491回例会
(和 食)

創立33周年記念例会

台北建成RCの皆様をお迎えし、楽しい記念例会となりました。

2024年4月10日(水)
(令和6年) 晴 No.30

- ☐ 司会 大橋誠之会場運営委員長
- ☐ 通訳 台北建成RC 林至真(Rice)さん
- ☐ ロータリーソング 清水順二ソングリーダー委員長
「ウェルカム名駅」「輝く理想」
- ☐ ゲスト紹介 大勝浩二親睦活動・家族委員/林至真(Rice)さん
NPO法人 愛知こどもホスピスプロジェクト
代表理事 畑中めぐみさん 理事 安藤晃子さん
台北建成RC 会長 陳立人(Polo)さん
幹事 黄啟倫(Allen)さん
黄伯仲(Energy)さん・ご夫人 莊淑鈴さん
陳正明(Designer)さん 黄共宏(Computer)さん

・ご夫人 葉淑敏さん 徐炎山(Sun)さん
倪仁賢(Mason)さん・ご夫人 洪世賢さん
洪瑞鴻(Grain)さん 林至真(Rice)さん
黄伯仲さんご親族 巫沛清(Will)さん
事務局 游玉音(Polly)さん 旅行ガイド 童丙龍さん

- ☐ 出席報告 田中勝美出席・ニコボックス委員
会員数79名(免除者14(12+2)名)
義務者出席53名 免除者出席8名 総数61名
出席率83.56% 3月27日修正出席率95.95%
- ☐ 台湾東部沖地震募金 161,000円



会長あいさつ

両角國男会長

本日は創立33周年記念例会を盛大に開催でき喜んでおります。台北建成RCから多くの皆様がお越し下さいました。ありが

うございます。大変良い交流ができ感謝しております。また今日は椿賞の受賞式がございます。受賞されたNPO法人愛知こどもホスピスプロジェクトの畑中さん、安藤さん、ようこそいらっしゃいました。

今日は台北建成RCの皆さんがいらっしゃいますので何か台湾語で歓迎したいなと思い、日本語で作った文章を chat GPT で台湾語に直しました。先程 Rice さんにおおむね間違いないと言って頂きましたので、スライドで表示しながら創立33周年記念例会にあたりご挨拶申し上げます。

2004年より台北建成RCとの交流が始まり、2006年に姉妹クラブ締結してから毎年相互訪問することで両クラブの結びつきが強くなり、なくては

ならないパートナーとして成長して参りました。しかし大変残念なことに、2019年に始まった Covid-19 感染はパンデミックとなり、どの国でも社会封鎖を実施したことに伴い、両クラブの相互訪問などの交流も途絶えることになりました。

幸いにも2023年には Covid-19 感染は沈静化に向かい、昨年春には名駅RC会員が貴クラブを訪問することができました。昨年貴クラブの皆様が名駅RCの会員を熱烈歓迎頂きましたことに心より感謝申し上げます。

今年は台北建成RCの皆様の名古屋にお越し頂きました。名駅RC全会員、心より皆様方のご来訪を大歓迎致します。

また、1月に発生した能登半島地震のお見舞金として28万台湾元という大金を石川県能登半島のある国際ロータリー第2610地区にご寄付頂けるとのこと、心より御礼申し上げます。名古屋名駅RCが所属する国際ロータリー第2760地区ガバナーより2610地区に台北建成RCの皆様方のご芳志を届けさせていただきます。

4月は環境月間/名古屋名駅RC 春の健康感謝月間です

< 例会開催予定 >

- ◇第1492回 4月17日(水) 通常例会(カレー)
青少年交換事業に関する卓話
地区青少年交換委員長 加藤謙一さん(名古屋宮の杜RC)
地区青少年交換副委員長 川西利浩さん(名古屋清須RC)
【例会後】第10回理事会

- ◇第1493回 4月24日(水) 例会変更(11:30~12:30)
例会場: 大名古屋ビル33階 オルクドールサロン
外部卓話 東海東京証券 中村様
【例会後】職場見学会 劇団四季「キャッツ」

一方、先週の貴国での大地震は私たちを大変に驚かせ、貴国の被害状況を大変心配しております。台湾東部沖地震により花蓮県を中心に台北地区までが大地震の被害に遭遇したことに心よりお見舞い申し上げます。まだ地震発生から10日程しか経過しないため被害の詳細が不明なこともあるかもしれませんが、被害が軽微でありますことを祈念すると共にこの度の震災に心よりお見舞い申し上げます。

さて、日本の4月初旬は桜の季節です。日本の四季の中でも春が一番華やかで美しい季節です。皆様の日本訪問が素晴らしい思い出と美しい記憶に長くとどまりますことを心よりお祈り申し上げます。

台北建成RCと名古屋名駅RCとの姉妹クラブとしての連携が更に強固となり、長く素晴らしい交流ができますことを心から祈念致します。

□幹事報告

森 美穂幹事

- (1) 本日の配付資料／卓話資料。
- (2) 今月の予定／4月は名駅RC「春の健康感謝月間」です。○4月17日(水)：通常例会。青少年交換事業に関する卓話(地区青少年交換委員会)。例会後、第10回理事会。
- (3) 4月24日(水)は名古屋ビル33階 東京東海証券プレミアムサロン オルクドールにて例会開催。受付11:00、例会11:30～12:30。
- (4) 4月24日の例会後、職場見学会を実施(名古屋四季劇場)。劇団四季「キャッツ」の観劇とバックステージツアー。開場12:45、公演開始13:30、公演終了16:40。客退出後に舞台装置を見学します。その後、有志により懇親会を開催予定。

□台北建成RC会長あいさつ



陳 立人(Polo) 会長

両角國男会長、藤井圓隆ガバナー補佐、名古屋名駅RC会員の皆様、ご家族の皆様、ご来賓の皆様、こんにちは。

名古屋名駅RCの皆様、創立33周年、誠におめでとうございます。台北建成RCを代表して心よりお喜び申し上げます。昨日はお忙しい中わざわざセントレアまでお出迎え頂き、また盛大な歓迎会で心温まる大歓迎を頂きましたことに感謝しています。

また、4月3日の台湾花蓮地震の復旧支援に貴クラブより多大な義援金を頂き大変感謝感激しております。ロータリーの架け橋によって日本・台湾両国がお互い困難な時に助け合うことこそ姉妹クラブの絆を一層強いものにするのだと確信しました。

コロナの影響が落ち着き、今後より一層の交流ができると思います。お互いの信頼関係を深めると共に、両クラブの友好と更なる発展を台北建成RC一同願っております。

最後にクラブの益々のご発展と会員の皆様並びにご家族のご多幸と健勝を心よりお祈り申し上げてお祝いの言葉とさせていただきます。本日は誠におめでとうございます。

□プレゼント・義援金交換

まず、両角会長から名駅RCのクラブ計画書、30周年記念誌、当会員の名簿をプレゼントしました。



次に台北建成RCのPolo 会長より両角会長・藤井ガバナー補佐に能登半島地震義援金(285,400円=132万円)を贈呈頂き、続いて両角会長からPolo 会長と第3484地区第四分区分ガバナー補佐であるComputerさんに台湾地震東部沖災害義援金(100万円)を贈呈しました。



また、台北建成RCからは「神之龍臺華窯2024春節記念酒」もプレゼントして頂きました。



□乾杯

筧 正紀会長エレクト

本日は良い天気の中、沢山の方にお集まり頂いて非常に嬉しい思いです。やっとコロナ前の記念例会の形に戻ったなど実感しております。また、この後椿賞の受賞記念卓話も楽しみにしております。



それでは、皆様のご健康、各クラブの発展、そして愛知こどもホスピスプロジェクトさんの今後の成長をお祈りして、乾杯！

□食事歓談タイム

本日のシャンパンは名鉄グランドホテルからご提供頂きました。ありがとうございます。



第33回椿賞表彰式

椿賞委員会

西川達郎委員長



1991年の当クラブ創立時より綿々と続けて参りました椿賞の表彰式を今日も迎えることができました。今年度は3件のご推薦を頂きました。推薦頂きました会員の皆様には厚く御礼申し上げます。

その中で椿賞の理念に基づき、栄えある受賞者となられましたのはNPO法人愛知こどもホスピスプロジェクトです。

それでは、推薦者の寺島先生にご紹介頂きます。

◇受賞者ご紹介

推薦者 寺島洋治さん



第33回となる椿賞にNPO法人愛知こどもホスピスプロジェクトを推薦させて頂きました。

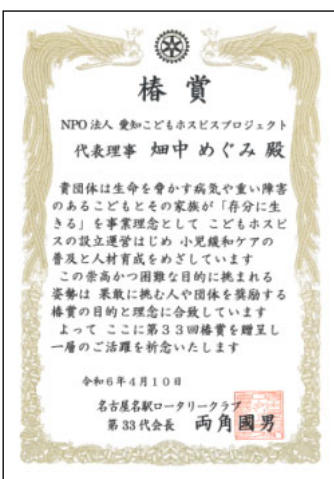
当プロジェクトを中心になって立ち上げられた代表理事の畑中さんは名古屋大学医学部保健学科看護専攻をご卒業後、主に小児病棟の看護とその教育を中心に活躍になり、2020年に看護学の博士号を取得されました。小児病棟での看護勤務のご経験から、重症の小児の患者さんには治療以外に必要なものと、2020年に愛知こどもホスピスプロジェクト委員会を立ち上げられ、昨年4月にNPO法人愛知こどもホスピスプロジェクトを設立されました。「存分に生きるを、一緒に」を理念に、様々なイベント企画や広報などで活躍されておられます。プライベートでは3人のお子様の母親としても奮闘されているそうです。

では、「こどもホスピス」とは何か？ということですが、私も詳しくは分かりませんが、パンフレットのの一部を読み上げて私からのご紹介とします。

こどもホスピスは、生命を脅かす病気や障がいのあるこどもとそのきょうだい・家族が、病院や自宅では体験できないイベントを楽しんだり、家族でのんびり過ごす場所です。また、こどもたちの「やってみたい」を叶える場所です。今という時を存分に生き、楽しみや喜び、悲しみなど、どんな気持ちも共にわかちあえるこどもホスピスを目指しておられるということです。

では、畑中さん、宜しくお願いします。

◇椿賞授与



椿賞受賞記念卓話



「愛知に、こどもホスピスを」

NPO法人

愛知こどもホスピスプロジェクト

代表理事 畑中めぐみさん

この度は椿賞受賞させて頂き、まずこと、大変光栄に思っています。本当にありがとうございます。また、本日は名古屋名駅RCの33周年の記念の会ということで、その時に私たちをご招待頂きましたことも感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

私たちは愛知こどもホスピスプロジェクトという団体です。「存分に生きるを、一緒に」を理念として、命に関わる病気や障がいのあるこどもとそのきょうだい・家族のための施設としてこどもホスピスの設立を目指しています。

日本には命に関わる病気や障がいのあるお子さんが推定2万人いると言われています。その2万人の向こうにはそのきょうだい、そしてご家族、またおじいちゃんおばあちゃんなど沢山の人がいて、この病気や障がいのあるお子さんを通じて色々な困難を抱えながら生活されています。

私たちが支援の対象と考えている LTC (Life-threatening conditions: 生命にかかわる病気や障がい) のこどもたちは主に4つに分類されます。

①白血病や脳腫瘍など、根治療法が奏功することもあるがうまくいかない場合もある病態。今でも日本のこどもの死亡率1位は悪性腫瘍であり、白血病や脳腫瘍などで亡くなるお子さんが多数いらっしゃいます。②筋ジストロフィーなど、早期の死は避けられないが、治療によって予後の延長が期待できる疾患。③進行性の病態で治療はおおむね症状の緩和に限られる疾患。先天性の染色体異常などがあり、生まれた時から「あともう1年も生きられない」ということを宣告されながら家族は過ごしていきます。④重症の脳性まひなど、不可逆的な重度の障がいを伴う非進行性の病態。合併症によって死に至ることがあります。

こうしたお子さんが日本では2万人、愛知県には1000人、名古屋市には300人いると推計されていて、そういったお子さんを対象に私たちは活動を進めたいと思っています。

●「こども時間」を大切にしたい

では、そうしたこどもたちはどんな状況の中で入院生活を送っているのでしょうか。私も小児がん病棟でずっと働いていましたが、入院生活の病棟の風景がこちらの写真です。



この2畳程の限られたスペースの中で、遊んだり

学んだりといった、こどもにとって発達に必要なことが全て行われていきます。

ベッドの横に、少し小さい簡易ベッドがあります。そこにはお母さんが24時間付き添いをされます。簡易ベッドはベニヤ板が敷いてあるだけで、その上でお母さんは布団を敷いて寝ています。寝返りを打つたびに目が覚めるような夜を過ごされてはいますが、こどもさんが良くなるまではということで頑張っておられます。短くて半年、長くて3年程の入院生活をこちらの中で送っていきます。

こういった病棟でこどもたちは、病気が治るまでは様々なことを我慢して生活しています。しかし、本当に病気が治るまで全てのことを我慢して生活していくことがいいのか？という思いが私たちの活動の始まりです。

病気を治しながらこどもにとって必要なこと、家族にとって必要なこと、両方一緒に叶えることはできないのかな、と思っています。

命と向き合う毎日です。そういったこどもたちにもやはり「こども時間」というものが必要なのではないかなと思っています。

今日一緒に来ている安藤さんのお子さんも小児がんでした。サチちゃんは今はお空に行っていました。先に行って上から見守ってくれているのかなとも思っています。

小児がんのお子さんには抗がん剤治療をします。辛い治療で、吐き気がありながらもバケツを抱えてゲームをしたり YouTube を見たりしながら、こどもなりに自分の「こども時間」を確保しています。

また毎日採血をするのですが、もうイヤと言っても避けることはできません。こどもたちももう諦めていて、毎日頑張っていて痛いこと、辛いことに向き合っていて下さっています。

悲しいとか怒っているとか心配とか泣きたいとか、どんな気持ちも受け止めてあげたいと思って私も看護師として関わってきましたが、やっぱり病院の中では生命が優先、最善の治療を安全に行うことが優先ですので、その中で「こども時間」を確保していくことはなかなか難しく、もどかしい日々を送っていました。

そういったこどもたちの周りには親もいます。きょうだいもいます。

親の状況としましては、小児がんの場合、精神的負担や経済的負担が増加すると言われていますし、残念ながらお子さんが亡くなった後は親の死亡率や離職率が増加することも明らかになっています。

また、きょうだいの状況も結構過酷で、入院中のきょうだいがいるこどもたちは約3割が臨床域や境界域にあると言われ、本当は病院にかかったほうがいいという状況のこどもたちがいます。

また、孤立や不安、恐怖など色々な負の感情が心の中で起きていて、その感情をなかなか言語化することができなくて不登校や不登園になることもあります。自殺をする子もいます。外で遊んでいる時に、ふと悪いなと思うんだ、と教えてくれた子もい

ます。自分だけが元気で健康でいることに対して罪悪感を感じているきょうだいの子もいて、そんなことを感じなくてもいいよと周りが言っても、なかなかそれは解消できないものだなと感じます。

家族はモビールみたいだなと思っています。1人の人が体調を崩したり何かアクシデントが起こったりすると、それを補うように他の家族がバランスを取って力を入れたり抜いたり色々なことをしながらバランスを取っていきます。どの方が家族の中で病気になっても同じかと思いますが、こどもさんが病気になると親やきょうだいには結構辛い時間が長く続きます。

● こどもホスピスってどんなところ？

ここから、こどもホスピスとはどんなところかを話してできればなと思っています。

LTCのこどもと家族を取り巻く制度の現状ですが、病気や障がいのあるこどもさんが地域で生活したり学んだりきちんとした医療を受けるということは法律でかなり担保されてきています。最近では医療的ケア児法という法律もでき、地域で生活する重症心身障害者の子たちが生活しやすい状況が整いつつはあります。

しかし、医療でも教育でも福祉でも、やっぱりこぼれ落ちるところはあります。きょうだいのケア、家族があるべき姿であるためのケアなどは、税金を使ったようなケアの中ではなかなか難しいなと思っています。そういったこぼれ落ちているところを私たちはNPOとして民間公益活動領域で支えていくことができるといいなと思っています。

こどもホスピスは医療では充足できない側面や、医療、福祉、教育の枠を超えた支援の活動をしていきたいと考えます。

こどもホスピスの「ホスピス」というのは、もともと「温かいおもてなし」という意味があります。一般的にホスピスはがんの領域で広がっていった言葉ですので、穏やかな死を迎える場所というイメージをお持ちかもしれません。

しかし、こどもホスピスはそういう場所ではありません。私たちはこどもホスピスを、発病時からのびのびと遊びや学びを楽しむことができる場所と定義しています。もう命がなくなるかもしれないといった時から使うのではなくて、例えば、あなたは小児がんですよ、と言われたその時から、その子たちにとっては小児緩和ケアが必要です。そういった小児緩和ケアは病院の中でも施されていくとは思いますが、地域の中でもそういったものを提供できる場所が必要だと思っています、その1つがこどもホスピスの役割かなと思っています。

こどもらしい時間、家族としての時間を存分に過ごせる居場所のようなところですよ。医療者だけではなく多様な人材によって支えられる場ですので、是非今日少しでもご興味を持って頂けましたら一緒にこの活動を進めて頂ければと思っています。

こどもホスピスは日本にはまだ大阪と横浜のたっ

た2か所にしかありません。大阪には2016年にTSURUMI こどもホスピスとして鶴見緑地に建てられました。ここにはユニクロの多大な寄付が入っていて、まだ設立して10年経っていませんが、全て寄付でまかなって運営を進めています。

横浜こどもホスピスは2021年に設立されて、横浜市からの支援を受けながら子どもたちを受け入れています。日々予約がいっぱいです。子どもたちはここに行くことをすごく楽しみにしていて、需要は高いんだなという実感があります。

私たちの団体は去年の4月28日に設立してまだ1歳にもなっていません。ただ、この1年活動させて頂く中で、こうしたこどもホスピスが地域に必要なと感じて頂ける皆さんが沢山いらっしゃるんだなと知ってすごく心強く感じています。

メンバーで顧問の高橋義行先生も椿賞を受賞されたことがあると伺いました。今回私たちがこの団体として受賞することができたことを高橋先生も本当に喜んでいらっしゃいました。

こどもホスピスができた後には病院との連携がととても大事だと思っていますので、愛知県内のLTCの子どもたちが入院する病院の総長の先生や小児科の教授の先生たちにも設立賛同者になって頂き、密な連携を取りながら活動を進めています。

● 様々なプロジェクトで小児緩和ケアを実践

私たちは2024年度には認定NPO法人を取得して、寄付者の方々がより寄付しやすいような形に活動を進めていきたいと思っています。

また、今年度中には仮施設での活動を開始して、2026年度には本施設の稼働を目指しています。

行政からの支援も必要ですので、愛知県や名古屋市に要望活動を行っています。名古屋市に要望した障害者基本計画(第5次)にこどもホスピス設立に向けた支援を組み入れて頂くことがこの4月に決まりました。国レベルの動きとしても、こども家庭庁ができたことで様々な活動が進んでいます。

先日(3月27日)、総理が国会で「小児がん患者等がご家族や友人等と安心して過ごすことができるこうした環境の充実に取り組んでいきたいと考えます」とご答弁をされており、国からのご支援も今後期待したいと考えています。

今はまだこどもホスピスの設立は叶っていません。しかし、叶う前から小児緩和ケアの実践をしていきたいと考え、色々な活動をしています。

病院の中に楽しみを持ち込みたいと、病院にがちゃがちゃを届ける「がちゃがちゃプロジェクト」は、中身や本体をご寄付頂きながら進めました。

野球観戦に行きたいという子どもたちがいますが、小児がんの子どもたちは免疫が低いので、不特定多数の人の中には行くこ



とができません。そこで、球場の個室をご寄付頂いて野球観戦をしました。この子は骨髄移植のあと初めて外出して、存分に楽しい時間を過ごしてくれました。

また、障がいのある子どもたちはなかなか旅行にも行けないので、地域の旅館さんと一緒に「お泊まりプロ

ジェクト」を行い、呼吸器を付けた双子のお子さんが初めての家族旅行をすることができました。

また、お子さんを亡くされたお母さんたちとずっとつながって子どもたちのことを忘れないでいきたいと思って、ブリーフケアプログラムを毎月のように実施しています。

全国でこどもホスピス設立を目指して活動している団体は沢山ありますが、今の一番の課題は広く支援の輪を広げることです。ご支援の方法は色々をご用意しております。皆さんご関心がありましたら是非宜しくをお願いします。

最後になりますが、支援する人・される人という立場を超え、病気のある・なし、治療をする・しないに関わらず、皆が手をつないで温かい地域を作っていけるといいなと思って活動を進めていきます。

本日は椿賞を頂き誠にありがとうございました。

台北建成RC 歓迎会

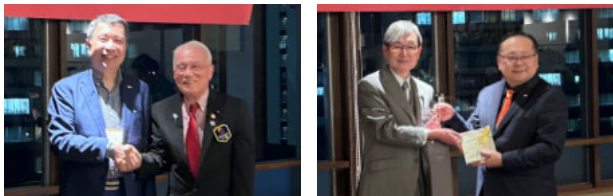
創立33周年記念例会の前日4月9日(火)、台北建成RCの皆様がセントレアに到着され、山本裕三国際奉仕委員長、藤井圓隆・菅垣 建両ご夫妻はじめ総勢10名でお迎えをしました。ご夫人の皆様へは花束をお渡ししました。6年ぶりの来日で皆さん大変懐かしがられ、喜ばれていました。



その後、午後6時から名鉄グランドホテル18階「アイリス」にて歓迎会を開催しました。台北建成RCからはPolo 会長はじめ16名、名駅RCからは両角会長はじめ31名が参加しました。

まず両角会長とPolo 会長からあいさつがあり、川村勝廣元会長の乾杯のあいさつに続いて歓談・会食となりました。

続いてガバナー補佐、会長、幹事、国際奉仕委員長が記念品交換を行いました。



また、台北建成RCからお土産として22年の貴重な紹興酒を頂き、全員で乾杯しました。アトラクションはコール・カメリアが合唱を披露。寛正紀会長エレクトの中締め後、二次会へ向かいました。



翌10日(水)は例会後、藤井圓隆ご夫妻、神野重行会員らで名古屋城をご案内しました。桜、金の鯨、本丸御殿など、見るもの全てに大変感動されていました。台北建成RCからはソフトクリームをご馳走になりました。

夜は藤井ご夫妻らで清須城の夜桜を案内しました。皆さん桜のトンネルに感嘆されていました。花見後は萬珍



軒で懇親会を行いました。

11日(木)は山本裕三国際奉仕委員長らがホテルでお見送りし、恵那～高遠～高山へ観光に行かれました。

13日(土)の夜に再び名古屋で藤井ご夫妻など9名とカラオケを楽しみました。

14日(日)の朝は藤井ご夫妻と宮下一成会員がお見送りし長島アウトレットへ。午後、セントレアで神野ご夫妻らがお見送りする中、帰国されました。



ニコボックス

田中勝美出席・ニコボックス委員

- 創立33周年おめでとうございます。来年皆様と台北で再会しましょう！ (台北建成RC)
- 33周年記念例会です。台北建成RCから多くの皆様がお祝いに訪問されました。ありがとうございます。本年度椿賞のNPO法人愛知こどもホスピスプロジェクトの畑中めぐみさん、安藤晃子さん、受賞おめでとうございます。名古屋名駅RCが40周年、50周年、更にその先へと発展していくことを祈念します。 (両角國男さん)
- ①台北建成RCの皆さん、ようこそ名駅へ。②NPO法人愛知こどもホスピスプロジェクト代表理事 畑中めぐみさん、おめでとうございます。 (菅垣 建さん)
- ①NPO法人愛知こどもホスピスプロジェクトの畑中めぐみ様、本日は当クラブにお越し下さりましてありがとうございます。卓話を楽しみにしております。②台北建成RCの皆様、ようこそお越し下さいました。桜の季節を存分に楽しまれ、良き思い出となることを願っています。 (森 美穂さん)
- 台湾の皆様、桜満開の名古屋へようこそ!! (藤井圓隆さん)
- ①台北建成RC Polo会長はじめ皆様のご来名を心より歓迎します。②椿賞のご受賞者 NPO法人愛知こどもホスピスプロジェクトの益々のご発展を祈ります。 (神野重行さん)
- 台北建成RCを歓迎して!! (山本裕三さん)
- 台北建成RCの皆様、ようこそおいで下さいました。日本の春を楽しんで下さい。 (田口 望さん)
- ①創立33周年を祝して。②台北建成RCの皆様を歓迎して。③愛知こどもホスピスプロジェクトの椿賞受賞を祝して。 (寺島洋治さん)
- 台北建成RCの皆様、本日は例会のご参加ありがとうございます。 (近藤元帥さん)
- 創立33周年記念例会に台北建成RCの皆さんをお迎えして。 (川村勝廣さん)
- 歓迎、台北建成RCの皆様。ウェルカム名駅。姉妹クラブとしてこれからも末永く親しくお付き合い下さい。 (小室健次郎さん)
- 台北建成RCの皆さんのご来訪を心より歓迎致します。昨夜は大変楽しい歓迎会でした。おいしい紹興酒、ありがとうございました。 (ゴルフ部会 宮下一成さん)
- 今日は椿賞の表彰式です。NPO法人愛知こどもホスピスプロジェクト様、受賞おめでとうございます。台北建成RCの皆様、昨夜は歓迎会のあとの二次会では大いに飲み、歌い、楽しく過ごさせて頂きました。 (西川達郎さん)
- 台北建成RCの皆様、ようこそ。愛知こどもホスピスプロジェクトの畑中さん、椿賞おめでとう。 (清水順二さん)
- 台北建成RCの皆様、ようこそ名駅へ。来年はまた又々台湾へ行きたいですね。 (大橋昭治さん)
- 健康に感謝して。(引原慶三さん、人羅隆史さん、久保田真樹さん、中村 修さん、小林泰平さん、森畑 明さん、広井幹康さん)